

平成30年度事業計画（案）

【基本的な考え方】

昨今の農山漁村の高齢化、人口減少、農業収入の減少など農山漁村を取り巻く環境の悪化から、グリーン・ツーリズムにおいても実践者の高齢化と後継者の不足、経営力の弱さ等により実践者の活動が停滞してきており、地域においても、地域内でのつながりやネットワークが弱くなってきたこともあって、教育旅行等の受入れ減少を招く等の課題が生じている。

これらの課題に対応するには、グリーン・ツーリズムをこれまでの実践者の「生きがづくり」から「業（ビジネス）」への転換、地域内から地域を跨いだ連携への拡大、旅行者ニーズに対応した企画の展開等が必要になるものと考えられる。

一方、当協議会においては、会員数が伸び悩み、会員であることへのメリットが実感できないとの指摘もあり、これまで以上に、事業運営への一層の工夫が必要になっている。

また、27年度の全国大会を受け、28年度からは課題ごとに全県での研修交流等の場を開催してきたが、今後はその成果を踏まえて、地域を跨いで意欲ある実践者が連携し、実践しながら成果を積み上げていくことが必要である。

以上のことを踏まえ、今年度からは協議会運営の「転換期」と位置付け、課題解決に向けた具体的な対応を進めるため、会員のニーズに叶い、新たな会員の獲得にも繋がる具体的なテーマを設定して事業展開を行うこととし、県補助事業以外にも他団体の公募事業等の活用により事業費を確保し、より実践的な協議会運営を行っていく。

【基本方針】

これまで取り組んできたグリーン・ツーリズムを推進するために必要な情報発信や受入態勢構築、普及啓発等については、実践者、推進組織、交流施設、関係団体等が一体となって引き続き推進していく。その中では、会員のメリットにつながる事業を優先して実施していく。

これに加え、意欲ある会員が地域を跨いで連携する新たな事業を実施していくことにより、実践者の経営力の強化と地域への来訪促進を図りながら新たな実践者を掘り起こし、後継者の確保等の課題解決に繋げていく。

《主な事業》

- (1) 県内・近県を中心とした情報発信と誘客促進
- (2) 地域ぐるみでの受入態勢構築の支援
- (3) グリーン・ツーリズムの普及と質の向上
- (4) 意欲ある実践者によるテーマ別の実践活動の展開
 - ① 「意欲的な取組みを進める個人会員による共同展開」
 - ② 「地域の食をテーマにした連携企画の構築」
 - ③ 「地域連携による教育旅行受入の態勢構築」
 - ④ 「農家民宿が連携した取組みの支援」

《 独 自 事 業 》

1. 情報発信事業

(1) SNS を活用した情報発信

協議会 HP「やまがた的グリーン・ツーリズム」の充実と併せ、会員の旬の情報を収集し、SNS（ツイッター、フェイスブック、インスタグラム）を活用した情報発信を継続的に実施する。

(2) フリーマガジンへの協賛

フリーマガジン「Gozzo 山形」に協賛し、会員からの商品の提供を受けて読者プレゼントとして提供し、会員施設への誘客の契機とする。

(3) 会員チラシ等のダイレクトメールでの送付【新規】

昨年度の「農～んびりやまがたスタンプラリー」への応募者の中で、ダイレクトメールでの送付を承諾した 325 世帯に対し、年 2 回、会員のチラシ等の送付を行う。(1 回目：4～5 月、2 回目：10～11 月)

(4) 農家民宿に関する特設サイトの開設【新規】

農家民宿を運営する会員の連携した取組みを支援するため、協議会 HP 内に農家民宿に関する特設サイトを開設し、予約受入の窓口機能を設置する。

(5) 関係団体との連携

- ① 下記の団体の構成員として参加し、連携を図りながら、グリーン・ツーリズムの普及啓発と情報発信等を図る。

《構成員となる団体》

日本 GT ネットワークセンター、おいしい山形推進機構、山形県観光物産協会、山形県教育旅行誘致協議会、やまがた広域観光協議会、山形県農業会議

- ② 山形県教育旅行誘致協議会が実施する教育旅行の誘致活動に会員の参加を呼びかけるとともに、誘致協議会と協同して地域での受入態勢の構築を図る。
- ③ やまがた広域観光協議会が実施する北関東周辺地域からのバスツアー誘致に取組むセールスチーム活動に参加し、グリーン・ツーリズム企画の組入れを働きかけていく。

2. 受入態勢整備事業

実践者間のネットワーク形成や地域が一体となった受入態勢の整備を推進し、実践者の資質向上を図る活動を支援する。(助成率：助成対象経費の 2/3 以内)

・年 2 回（8 月末と 2 月末）の申請受付を継続

・新たな事業の立上げ支援を重視するため、継続事業については、当面の間、継続支援の年数に応じて助成額を調整

※調整率：4～6 年連続 5%減、7～9 年連続 10%減、10 年以上連続 20%減

《助成対象事業》

1) 実践者間ネットワーク形成支援事業（助成金上限 10 万円）

地域において実践者が連携して取組み、実施する研修・体験・交流事業

2) 商品力向上及び人材育成支援事業（助成金上限 組織 5 万円、個人 2 万円）

先進地研修（原則として組織）や全国会議・関連セミナー等への参加

3) 受入企画実践支援事業（助成金上限 10 万円）

観光事業者等と連携した地域での意欲的な受入企画の実践

※平成 30 年度上期の採択（審査会 3 月）：採択件数 6 件、助成決定額合計 501 千円

○実践者間ネットワーク形成支援事業 5 件

- ・庄内町グリーン・ツーリズム推進協議会 助成決定額 95,000 円
実践者研修会の開催、山大農学部との連携事業（継続 5 年目）
- ・もがみ農村体験ネットワーク 助成決定額 90,000 円
実践者研修会の開催（継続 8 年目）
- ・高畠町グリーン・ツーリズムネットワーク 助成決定額 70,000 円
「たかはた産直」事業の実施（継続 3 年目）
- ・新・農業人ネットワーク山形 助成決定額 100,000 円
「宮城・山形 新農業人フェスティバル」の開催（継続 2 年目）
- ・きたむらやま産直組織ネットワーク 助成決定額 80,000 円
「ジョイフル産直」の開催（継続 10 年以上）

○受入企画実践支援事業 1 件

- ・満沢里の資源研究所 助成決定額 66,000 円
旅行会社と連携した地域資源調査、旅行企画造成、農村体験ツアー実施（新）

3. 普及啓発事業

(1) 地域活動推進事業

総合支庁管内全体をカバーする実践者の組織又は総合支庁が実施する事業及び組織の運営を支援する。

（助成金上限 20 万円を当面の間、15 万円に減額）

(2) 会報の発行

会員間の情報交換を図るため、年 2 回の会報を発行する。

(3) 普及啓発活動の実施

グリーン・ツーリズムの県民への PR や他県とのネットワーク形成等を行うとともに、新たに宮城県グリーン・ツーリズム推進協議会との交流に取り組む。

① 「第 17 回 全国グリーン・ツーリズムネットワーク大会」への参加

平成 30 年 11 月 21 日(水)～22 日(木) 長崎県

② 「日本一さくらんぼ祭り」への参加（6/24）

③ 「庄内・命の食プロジェクト」の後援

④ 宮城県グリーン・ツーリズム推進協議会との交流【新規】

(4) 「駅西 旬の朝市」運営会の活動支援

「駅西 旬の朝市」は山形駅西口拠点施設（山形県総合文化芸術館）の建設工事に伴い、その間の活動を休止としている。

① 今年度より本格再開までの間、暫定的な活動として山形県観光物産協会が主催する霞城セントラル 1 階アトリウムでの定期的なイベントに出店

《開催予定》 平成 30 年 6 月～11 月の原則金曜日（年 6 回開催）

※6/22、7/13、8/31、9/14、10/12、11/16

② 仙台市勾当台公園における「大崎、栗原、石巻、山形」交流市の開催

4. 総会、役員会、幹事会等の開催

- (1) 総会 年1回(5月)
- (2) 役員会 年2回(9月、3月)
- (3) 拡大幹事会 年2回(4月、12月)

《 県 補 助 事 業 》

1. グリーン・ツーリズム推進事業

(1) 「グリーン・ツーリズム NEWS」の発行

旬のグリーン・ツーリズム情報を県内及び近県に発信することを目的に、紙面内容と発行時期を見直しながら年5回の発行を継続する。

会員情報の発信を主眼に、昨年度試行した形態別のテーマに加え、総合支庁と連携し、「地域を楽しむ」をテーマに各地域に特化した発行に取り組む。

《発行計画》

30年6月「さくらんぼ情報」(事務局)

7月「村山地域」、8月「最上地域」、

10月「庄内地域」、11月「置賜地域」

(2) ホームページ「やまがた的グリーン・ツーリズム」の管理運営

会員の旬の情報の収集・発信を強化し、グリーン・ツーリズムの全県ポータルサイトとしての充実を図る。

- ・新着情報の積極的な活用の周知
- ・会員バナー広告の掲載募集
- ・データベース「農～んびりやまがた発見ナビ」の定期的な情報更新と有効活用

(3) 関連施設を巡るスタンプラリーの実施

開始から9年目を迎え、一定数の参加が見込める誘客企画として定着してきたことから、今後は会員施設への誘導と新たな顧客(DM送付先)の獲得を図ることを主眼に実施方法を見直し、スタンプラリーを実施していく。

《実施企画》

- ・名称:「農～んびりやまがたスタンプラリー&SNS写真投稿キャンペーン」
- ・開催期間:平成30年5月1日(火)～10月31日(水)
- ・参加施設:80施設(会員45、会員以外35) ※昨年度64施設
- ・実施方法:

①スタンプラリー

参加施設を会員施設2グループと会員外施設1グループの3グループに分け、グループごとに設置する3種類のスタンプを集めて応募台紙の作成20,000部(昨年度16,000部)配置先240か所程度

②SNS写真投稿キャンペーン【新規】

利用した押印施設の写真とコメントをSNS(Facebook及びInstagram)で投稿することで応募

(4) グリーン・ツーリズム推進体制の運営

2. グリーン・ツーリズム推進テーマ別検討会の実施【新規】

これまで実施してきた課題ごとの全県での研修交流会等の成果を踏まえ、課題解決に向けた具体策を検討・実践していく「テーマ別検討会」を3テーマで実施していく。

実施に当たっては、意欲的な会員が地域を跨いで連携しながら、新たな実践者の参画も働きかけていくこととし、参加することでのメリットを実感できるような事業展開を検討していく。

なお、テーマ別検討会での検討を踏まえた具体的な事業展開においては、別途特別会計を設定し、「やまがた農商工連携ファンド事業助成金」の採択を得て必要な事業費を確保するとともに、連携団体等との協同により実施していく。

1) テーマ1 「意欲的な取組みを進める個人会員による共同展開の支援」

意欲的な会員が連携した商品の再構成による共同通販事業を支援

2) テーマ2 「地域の食をテーマにした連携企画の構築」

農家レストランを運営する会員が連携し、地域食材を使用した料理を統一コンセプトのもとで全県的なメニュー化を図る取組みを支援し、これを活用した周遊企画を構築

3) テーマ3 「地域連携による教育旅行受入の態勢構築」

廃校等を活用した受入施設を持つ複数の地域が連携し、民泊に頼らない新たな教育旅行のモデルとなる受入態勢等の検討

(山形県教育旅行誘致協議会との協同実施)

《 特別会計事業 》

「やまがた農商工連携ファンド事業助成金」の採択を得て、特別会計を設定し、下記の事業を実施する。

1. 特別会計の設定方法

- ・ 設定期間：「やまがた農商工連携ファンド事業助成金」の事業期間（30年2月～31年9月）となる30～31年度の2か年間限定

- ・ 助成金は2か年で2,000千円の採択

1期(30年2月～9月)1,300千円、2期(30年10月～31年9月)700千円

- ・ 30年度予算で繰越金を活用し、2か年で必要な事業費を特別会計に繰出し、各年での助成金の交付を受け、各年度末に一般会計に繰入れる。

2. 事業内容

前述の「グリーン・ツーリズム推進テーマ別検討会」での検討を行いながら、意欲ある会員が地域を跨いで連携して2つのグループを設置し、その活動を支援しながら2つの事業を実施していく。

(1) 会員連携による共同通販事業の支援

意欲的な個人会員が連携して取組む「やまがたグリツリ・ファーマーズの会」の活動を支援し、会員の思いやこだわり等の作り手の「人」を前面に出したフリーペーパーを発行し、その中で会員の商品を再構成した共同通販事業による販路拡大を図りながら、地域の食情報を発信して来訪の拡大を目指す。

○共同通販への商品の再構成

- ・「やまがたグリツリ・ファーマーズの会」による商品の選定、共同商品としての再構成
- ・専門事業者へ委託し、参加会員への取材による記事や画像等を作成、共同通販商品一覧を作成

○フリーペーパーの発行による共同通販の試行

- ・専門事業者に委託して、「人」を前面に出したフリーペーパーの企画構成、特集記事等の作成
- ・フリーペーパーの発行とDMによる送付

(2) 「やまがた農園ランチ巡り」事業の実施

農家レストランを経営する会員が連携して取組む「やまがた農園ランチの会」の活動を支援し、統一コンセプトのもとで地域の食材を使用して提供する料理を「やまがた農園ランチ」と称して全県的なメニュー化を図るとともに、これを活用して協議会が周遊企画を構築する。

○「やまがた農園ランチ」のメニュー化

- ・「やまがた農園ランチの会」による「農園ランチ」の選定、集約
- ・各農家レストランへの取材による「農園ランチ」情報の一覧化
料理メニュー、使用食材、料理人のこだわり等

○「やまがた農園ランチ巡り」の展開

- ・協議会HP内に「やまがた農園ランチ巡り」特設サイトを開設
農園ランチ情報、オプション情報（体験、特典）
周辺での楽しみ方（周辺の会員情報、周辺施設・地域での企画等）
- ・「農園ランチパスポート（仮称）」の発売